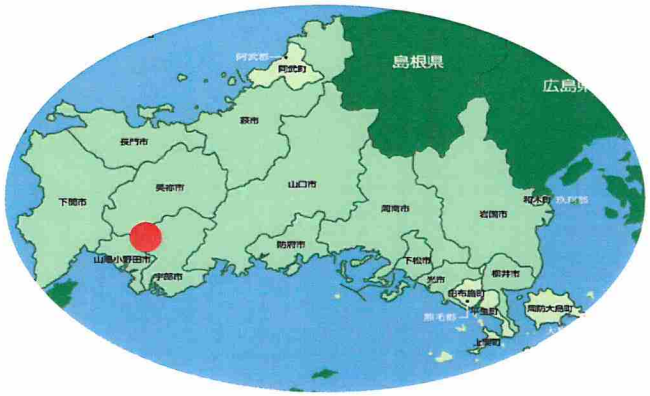
# 山口県山陽小野田市厚狭地区　平沼田（ひらんた）地域の環境を守る会




山陽小野田市 厚狭地区の最北部にある平沼田集落。宇部市と美祢市に隣接する中山間地域である。

伝説の偉人　厚狭の三年寝太郎が造ったとされる堰の跡には、コンクリート製の寝太郎堰が昭和43年に完成している。（平成18年　疏水百選に認定）

平沼田集落の田畑はのり面もきれいに手入れされており、美しい農村景観が保たれている。

農地集積後の中心経営体の
経営面積16.2ha（平成26年予定）
（集落の総農地面積の約85%相当）

竹林ボランティアによって定期的に竹林が整備される。

# 地域の誰もが納得する方法を模索して
# 農地の集約化がもたらした大きな成果！

## 1　農地の集約化のきっかけ

この農家数16戸の平沼田集落が、「人・農地プラン」を策定するに至った大きなきっかけは、平成元年から始まった「ほ場整備事業」であった。それまで平沼田集落には、一枚が3アール程度の小さな農地が400枚近くあった。ほ場整備をするまではそれぞれが小さな田んぼであるから、小さいトラクターでも間に合っていたが、土地を集約するとなると、一番大きな問題がやはり機械の大型化である。個人ではとても投資しきれない。　そこで、・・・・・。

何度も集会をかさねた。

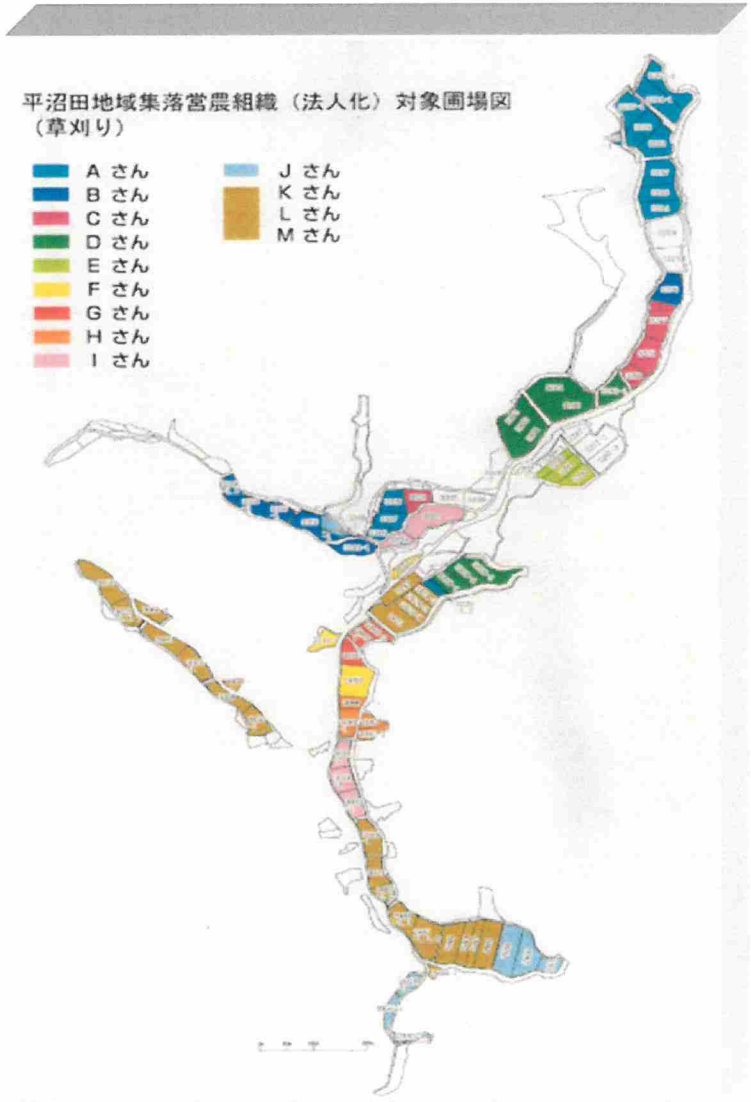
## 2　農地の集約化の苦労と円滑に進める方法

土地の広さや地形、日当たりや水質などさまざまな条件に照らして、およそ10項目の評価表を作り、一筆ごとに評価点数を付けて、集落の人たちに提示した。そして、その評価に基づいて、1反あたりの土地の値段の1.5倍の評価額で金銭による換地清算をしたところである。

## 3　高齢農家をひとりも脱落させない！

農地をすべて白紙委任したからって、農業をリタイヤするわけじゃない。法人で農地をまとめても、草刈りや水管理など、細かな作業は高齢者の協力なしには無理。法人では、年5回程度の草刈りを共同作業ではなく個人任せにしている。畦畔の面積割で労費を算出する予定だ。

－ 草刈担当者図面 －




草刈りの担当者を色分けして示してあるほ場図。お年寄りから順番に刈る場所を決めてもらい、みんなで手分けをして草を刈る

## 4　損しない農業で人と農地を守るぞ！

今後、法人では水稲に加え、転作の麦や飼料作物、さらに野菜（カボチャ・ブロッコリー）も作付けする。米はこれまで村上さんはじめ組合員がそれぞれつかんでいた個人客を法人が引き継ぎ、直販に力を入れていく予定だ。平沼田は「足腰の強い農業」とは無縁なところ。儲ける農業ではなく、みんなで楽しく損をしない農業をしていこうと考えている。

集落の共同資産である農業機械。県と市の補助で大型のコンバイン、トラクター、田植え機が揃い、ガレージも整備することができた。1992年に共同購入した35馬力のトラクターは、今でもバリバリ活躍中。

（新作物　カボチャ）

## 5　地域を牽引するリーダーの存在が重要！

『人・農地プラン』を進めるにあたって大事なのは、
「強力なリーダーシップで地域を牽引するキーパーソン的な人材が絶対的に必要である。」

平沼田集落では機械を購入したときにみんなで2つの約束をした。
① 機械への追加投資を抑えるために、機械を丁寧に大事に長く使おう。
② 自分たちで積み立てをして、借金をせずに機械の修繕や更新をしていこう。
（この約束は、平成4年に機械を購入して以来、ずっと守られている。）

## 6 将来を見すえて上手な世代交代を！

「後継者の問題にしても、父親が元気なうちは次の世代に譲ろうとしない。それでもいいのだけど、父親ができなくなって初めて息子の代に譲るのでは遅い。地域農業の活性化には、上手な世代交代もポイントだ。」と指摘する。村上さんは、「今回、法人化するにあたって、組織化はするけれどもその代わり、近い将来、世代交代が必ずできる態勢を作っておくことを念頭に置いた。数年前でも、法人化しようと思ったら、それなりの形にはできた。しかし、今携わっている人の多くは60～70代である。5年先、10年先まで続けられるだろうか

「和の郷」は、理事が6名いる。平均年齢は67歳。これだけだったら、おそらく長く持たない。だから、理事全員に、次に地域を牽引していく若い世代を補佐につけた。あなたがこの人の後継だよ、今のうちにいろいろ勉強しておきなさいよと。補佐の平均年齢は47歳。

各世代のコミュニケーションが図られ、地域の結束力は抜群である。
そして、次世代を担う「地域リーダーの予備軍」が育っている。

## 7　地域のあるべき姿を描き実行に移すことが大切！

平沼田集落では、都市部や地区外の人たちとの交流も進めている。「田舎の集落はとかく保守的になりがちである。外から人や物が入ってくることに慣れておかなくてはいけない。どこの地域でもそうだが、地区外からの新規就農者を受け入れるなら、受け入れる側も柔軟でないと円滑にいかない。」と考えている。

おそらくだれもが自分が生まれ育った地域を大切にしたいと思っている。将来的に地域がどうあってほしいかを思い描かなくては何も始まらない。地域農業の再生が日本の農業の再生につながることを改めて理解することが大切である。

約30人の竹林ボランティアは地区内の人と地区外の人が半々で、多いときは年に10回も活動している。

## 8 「人・農地プラン」を作成した結果！

①「農地集積協力金（経営転換協力金）」
②「規模拡大加算金（※戸別所得補償）」
③「法人化支援（※戸別所得補償）」

## 9 プランは「むらの未来予想図」 5年、10年先の後継者育成も！

「和の郷」の役員6名は、会計・事務、営農、機械・施設の3部門に配属される定年世代（平均67歳・うち一人は女性理事）だが、部門ごとに現役世代（平均47歳）の補佐役が付けられている。5年、10年後には、補佐役が集落営農の中心となるよう、プラン作成と合わせて、むらの後継者についてもみんなで話し合って決めた。

### 山口県山陽小野田市　厚狭地区（平沼田集落）　人・農地プラン

| 市町名 | 地区（集落） | 当初作成年月 | 更新年月（1回目） | 更新年月（2回目） | 地域の中心となる経営体の代表者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 山陽小野田市 | 厚狭地区（平沼田集落） | 平成27年4月 | - | - | （農）和の郷　代表　村上　俊治 |

**1. 今後の地域の中心となる経営体**

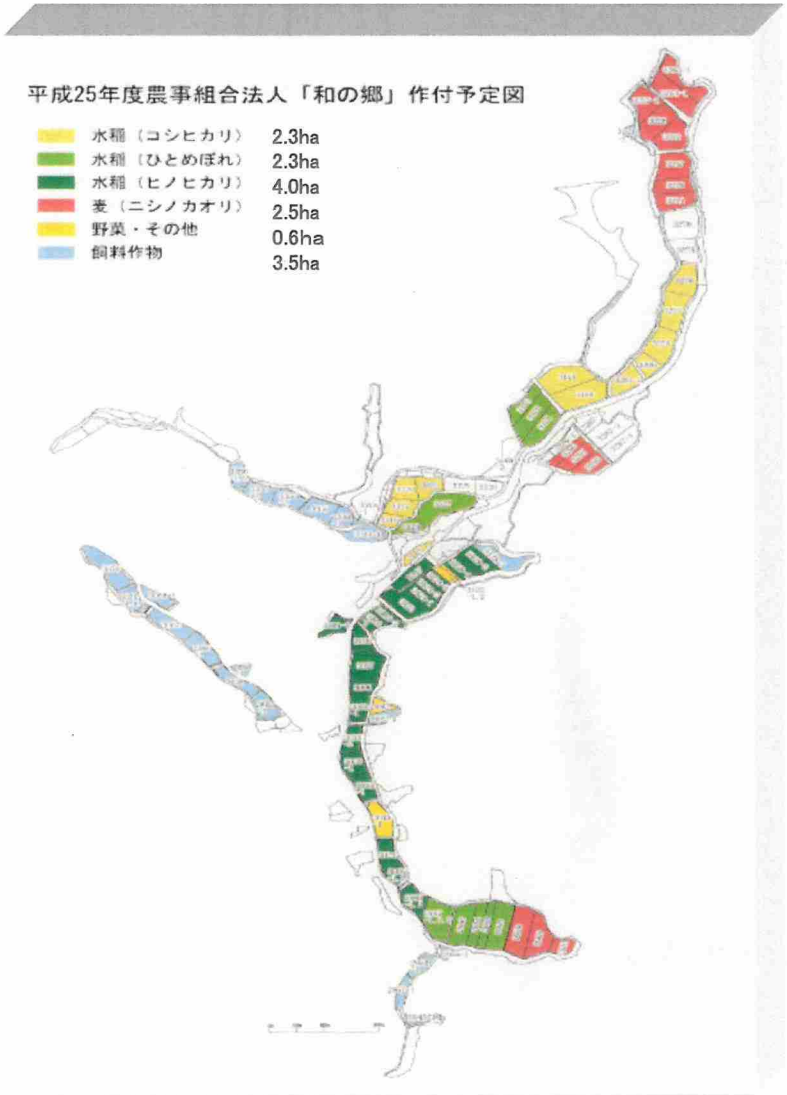
| 経営体（氏名） | 所属集落名 | 経営者・代表者の年齢（歳） | 構成員（従業員）人数 | 後継者の有無 | 戸別所得補償制度の加入者 | 現状（平成24年度） | | 計画（平成28年度） | | 新規就農・6次産業化・高付価値化・複合化・低コスト化・法人化等の取組 | | 活用が見込まれる施策 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 経営内容（作目） | 経営規模（ha、頭数） | 経営内容（作目） | 経営規模（ha、頭数） | | 取組年度 | 規模拡大加算 | 青年就農給付金（開始型） | スーパーL資金の金利負担軽減処置 | 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金 | |
| （農）和の郷 | 平沼田 | 63 | 30（27） | - | 加入 | - | 0 | 水稲・麦・野菜 | 16.15 | 法人化、複合化 | 24 | ○ | | | | |

**2. 地域の中心となる経営体以外の農業者**

農地の提供等により地域の中心となる経営体と連携する農業者

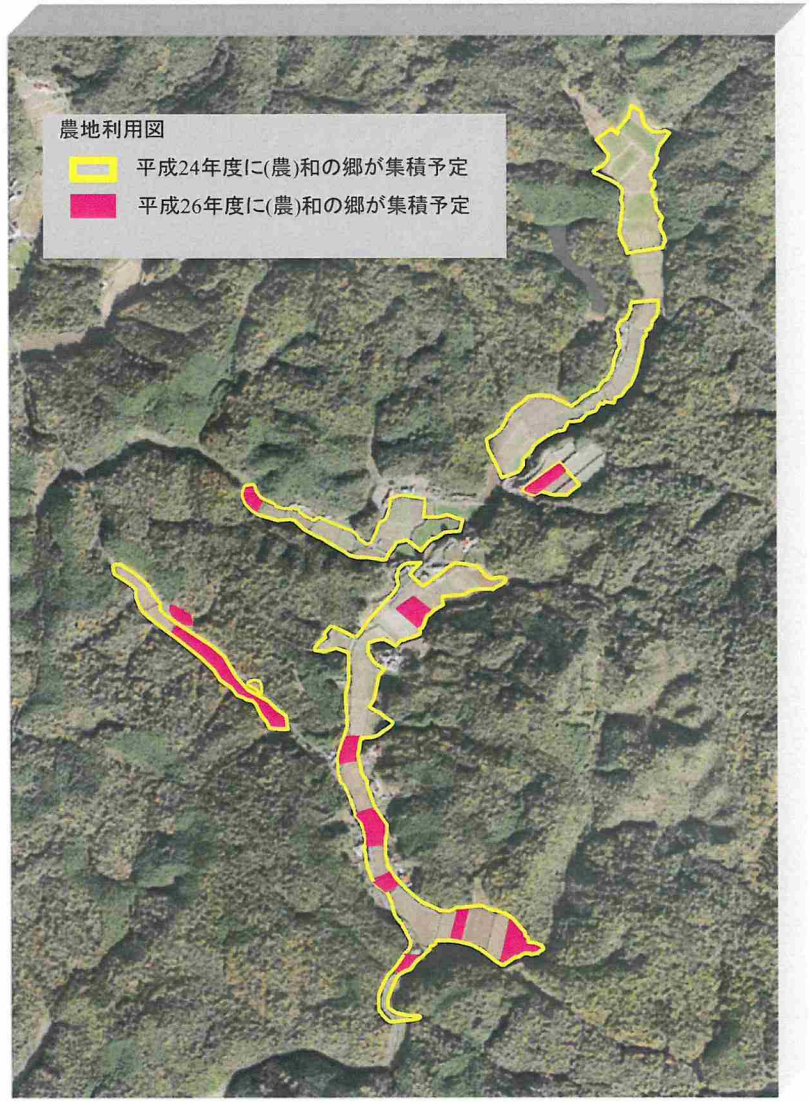
| 農地の提供等により連携する農業者（出し手） | 所属集落名 | 年齢（歳） | 戸別所得補償制度の加入者 | 遊休農地の有無（農業委員会確認） | 現状（平成24年度） | | 計画（平成28年度） | | 活用が見込まれる施策 | | | | 備考（今後の役割等） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 経営内容（作目） | 経営規模（ha、頭数） | 経営内容（作目） | 経営規模（ha、頭数） | 経営転換協力金 | 分散錯圃解消協力金 | その他 | 活用が見込まれる選択事業なし | |
| A | 平沼田 | 79 | 加入 | 無 | 水稲 | 1.14 | - | 0.00 | ○ | | | | 全ての農地を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。 |
| B | 平沼田 | 84 | 加入 | 無 | 水稲 | 0.56 | - | 0.00 | ○ | | | | 全ての農地を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。 |
| C | 平沼田 | 77 | 加入 | 無 | 水稲 | 0.78 | - | 0.01 | ○ | | | | 農地0.78haのうち0.77haを白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。残り0.01haは耕耕。 |
| D | 平沼田 | 67 | 加入 | 無 | 水稲 | 1.25 | 野菜 | 0.40 | ○ | | | | 地域中心となる経営体である法人経営や集落営農等のオペレータとして活動する。残り0.40haは野菜経営へ転換する。 |
| E | 平沼田 | 83 | 加入 | 無 | 水稲 | 1.84 | 野菜 | 0.34 | ○ | | | | 農地1.84haのうち1.50haを白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。残り0.34haは野菜経営へ転換する。 |
| F | 平沼田 | 74 | 加入 | 無 | 水稲 | 1.31 | 野菜 | 0.23 | ○ | | | | 農地1.31haのうち1.08haを白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。残り0.23haは野菜経営へ転換する。 |
| G | 平沼田 | 63 | 加入 | 無 | 水稲、大豆 | 2.98 | 野菜 | 0.47 | ○ | | | | 地域中心となる経営体である法人経営や集落営農等のオペレータとして活動する。残り0.47haは野菜経営へ転換する。 |
| H | 平沼田 | 80 | 加入 | 無 | 水稲 | 1.28 | 野菜 | 0.33 | ○ | | | | 農地1.28haのうち0.95haを白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。残り0.33haは野菜経営へ転換する。 |
| I | 平沼田 | 61 | 加入 | 無 | 水稲、野菜 | 1.72 | 野菜 | 0.17 | ○ | | | | 地域中心となる経営体である法人経営や集落営農等のオペレータとして活動する。残り0.17haは野菜経営へ転換する。 |
| J | 平沼田 | 77 | 加入 | 無 | 水稲 | 0.87 | - | 0.00 | ○ | | | | 全ての農地を白紙委任し、水管理等軽作業を請け負う。 |
| K | 平沼田 | 77 | 加入 | 無 | 水稲 | 1.72 | 野菜 | 0.15 | ○ | | | | 地域中心となる経営体である法人経営や集落営農等のオペレータとして活動する。残り0.15haは野菜経営へ転換する。 |
| L | 平沼田 | 83 | 非加入 | 無 | 野菜 | 0.09 | - | 0.00 | | | | ○ | 自己経営。H26年度以降作業委託を検討。 |
| M | 平沼田 | 71 | 非加入 | 無 | 自己保全 | 1.03 | - | 0.00 | | | | ○ | 自己経営。H26年度以降作業委託を検討。 |
| N | 平沼田 | 82 | 非加入 | 無 | 自己保全 | 1.39 | - | 0.00 | | | | ○ | 自己経営。H26年度以降作業委託を検討。 |
| O | 平沼田 | 91 | 非加入 | 無 | 自己保全 | 0.81 | - | 0.66 | | | | ○ | 自己経営。H26年度以降作業委託を検討。 |
| P | 平沼田 | 72 | 非加入 | 無 | 水稲 | 0.12 | - | 0.00 | | | | ○ | 自己経営。H26年度以降作業委託を検討。 |

## 10　－平成25年度の作付予定図－




水稲も品種ごとにほ場が区分されている。米はほとんどが直販だ。飼料作物はイタリアンライグラスを栽培。飼料作物は近隣の酪農家に出荷し、**耕畜連携**を実践している。

## 11　－農地利用図－

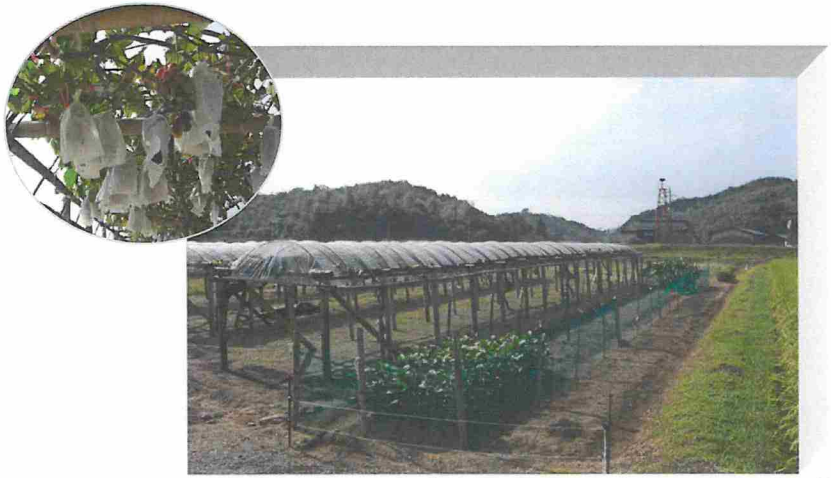


## 12　平沼田集落全体がひとつの家族　隣人愛が美しい山村を守る！　（基礎活動）

高齢化などによる担い手不足で農業の生産現場が元気を失っている。
そんな中で、あえて土にまみれながら、コミュニティーの輪を広げている人たちがここにいる。

## 13　平沼田集落のモットーは、
## 「できるときに、できるひとが、できることをやる！」（農村環境保全活動）

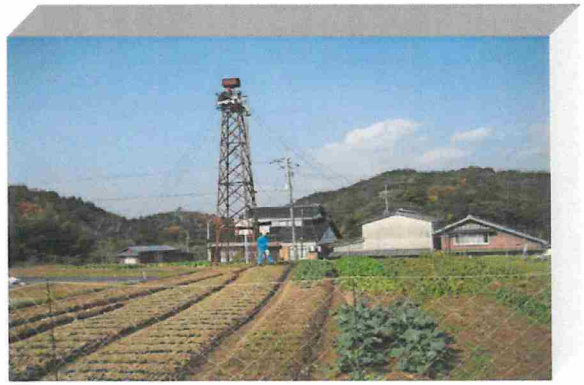
農地が荒廃すれば、地域住民の心も荒んでいく。儲ける農業はできないが、集落みんなで、楽しく損をしない農業を築きあげていきたい。



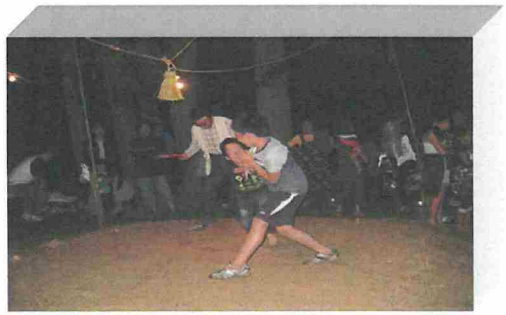
伐り出した竹は竹釜で竹炭にしたり、ブドウ棚に活用している。ナイスなアイディアだ。

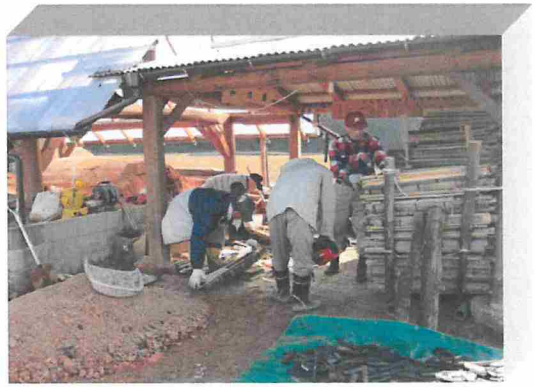
## 14　自分たちの地域は、自分たちで守る。　集落全体が大きな家族である！　（交流活動）

平沼田集落における地区外の人々との交流事業のひとつが、平成18年から始めた「竹林ボランティア」である。竹林の整備をするかわりに、会員登録した人は、自由にタケノコ刈りを楽しめ、そば打ち大会や農作業（田植えや稲刈り等）にも参加できる。



（火のみ櫓をクリスマスツリーにみたててイルミネーション装飾）



## 15　地域力の向上をめざす！
## 竹林ボランティアと協働して里山を守る！
## 平沼田集落完結型　農作業だけではなく、介護や福祉も集落で完結したい！
## （自主施工等）

すべてを行政まかせにしてはいけない。荒廃しつつある郷土を自分たちの手で守って行く。この取組みに、将来の展望が開きつつあると感じている。